



オラン・ヘレム墓は、モンゴルの首都ウランバートル西方約220km、ボルガン県バヤンノール郡にあります。2011年、モンゴル、カザフスタン共同で発掘調査がおこなわれました。未遑期であったこの7世紀の墓から、多数の副葬品ばかりでなく、モンゴル初となる極彩色壁画が発見されました。壁画には、高松塚古墳、キトラ古墳で見られる四神の青龍、白虎などが描かれていたことから、日本でも注目を集めました。

壁画の復原模写

オラン・ヘレム墓は調査後、保護のため密閉されましたが、大量のカビが発生、壁画は存亡の危機に直面しました。そのような、京都にある文化財修復会社「彩色設計」が無償でこの貴重な壁画の復原模写をおこないました。2013・14年に数回、現地で壁画トレースと撮影をおこない、これを基に2015年に完成させました。

オラン・ヘレム墓の概要

墳丘は直径約35m、高さ約3.5mの円形で、墓室はその地下約7.5mに築かれます。墓入口から墓室までの全長は約60mに及びます。入口は墳丘南方約20mに位置し、そこから北向きに墓道が掘られます。さらに水平方向の地下通路が約43m続き、墓室へ到達します。地下通路部分は4本の天井（堅坑）とこれらをつなぐ通路、墓室へ通じる甬道からなります。天井はいずれも貫通する明天井で、最も奥の天井4間側には壁画が穿たれます。墓室の規模は南北3.1m、東西3.4mです。被葬者は火葬されていました。

出土遺物は、冠帯、ビザンティンやササン朝ペルシアの金貨37枚、銀貨4枚、金製留金、耳飾、指輪、腕輪、鍔・金などの馬具、青銅製の海老殻、人形・鳥・畏獣の木製像、陶製の狼鷹獣・羊・鳥・豚・駝駝像、90体の人物俑、18体の騎馬人物俑など多種多様です。

壁画

壁画は、墓道、天井1～4の間側壁、天井1・2・4の北壁、墓室壁面に描かれます。墓道の東西壁にはそれぞれ青龍と白虎が頭部を入口側、南向きに、その墓室壁にそれぞれ3人の宮人、1人の宦官、列騎が描かれます。甬道入口にあたる墓道北壁には樓門図が描かれ、天井1間側壁に牽馬図、天井2間側壁に人物図、天井3東壁に狩猟図、天井4間壁には壁畫を挟んで人物図（宦官）が描かれます。天井3を除く各天井北壁には、蓮華（天井1）、畏獣（同2）、樓門（同4）が描かれ、墓室には、あまり平滑ではない壁面に樹下人物図が記されます。

オラン・ヘレム墓の被葬者はわかっていませんが、その規模、副葬品、壁画図像の特徴などから、都督（軍司令官）クラスの高位の人物が葬られたと推定されます。今回の展示では、写真、精密な復原模写などを通じて、この貴重な壁画を紹介します。

【協力者・協力機関】

小野村勇人、北村 亮、清水奈都紀、久安敬三、平岡智吾、牟田口卓人、山口敬志、山本真由美、朝日放送株式会社、帝塚山大学、モンゴル国立文化遺産センター、有限会社 彩色設計（五十音順、敬称略）

【展示担当・リーフレット執筆】吉村和昭

【展示・リーフレット作成協力】木下直・堤崎・小栗明彦・鶴見泰寿・重見泰・北井利幸・天野夢・阪江本里・安川真貴・堀内喜久子・西村由紀子

特別陳列

「モンゴル草原7世紀の極彩色壁画 オラン・ヘレム墓」

発行 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
〒634-0065 奈良県橿原市敬徳町50-2
TEL (0744)24-1185・FAX (0744)24-1355
URL <http://www.kashikoken.jp/museum/>
平成28(2016)年8月20日
印刷 橋本印刷
〒639-2155 奈良県葛城市市巾365番地



平成28年度文化庁地域への美術館・歴史博物館支援事業

特別陳列

モンゴル草原7世紀の極彩色壁画 オラン・ヘレム墓

平成28(2016)年8月20日(土)～10月2日(日)

主催：奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
後援：モンゴル国立文化遺産センター・帝塚山大学
朝日新聞社・朝日放送株式会社
特別協力：有限会社 彩色設計



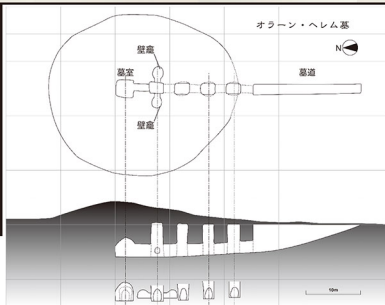
復原模写制作作業



乘馬圖 (天井1東壁) 復原構写



人物圖 (天井2西・東壁) 復原構写



復原構写



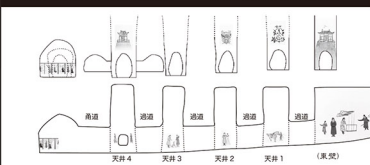
官人圖 (墓道西壁)



人物圖 (甬道)・狩獵圖 (天井4西・東壁、天井3東壁) 復原構写



柵門圖・長獣圖・運軍圖 (天井4、天井2、天井1) 復原構写



壁面配置圖

